

名古屋市を取り巻く状況について

第1回名古屋市次期総合計画有識者懇談会

平成25年7月29日
名古屋市

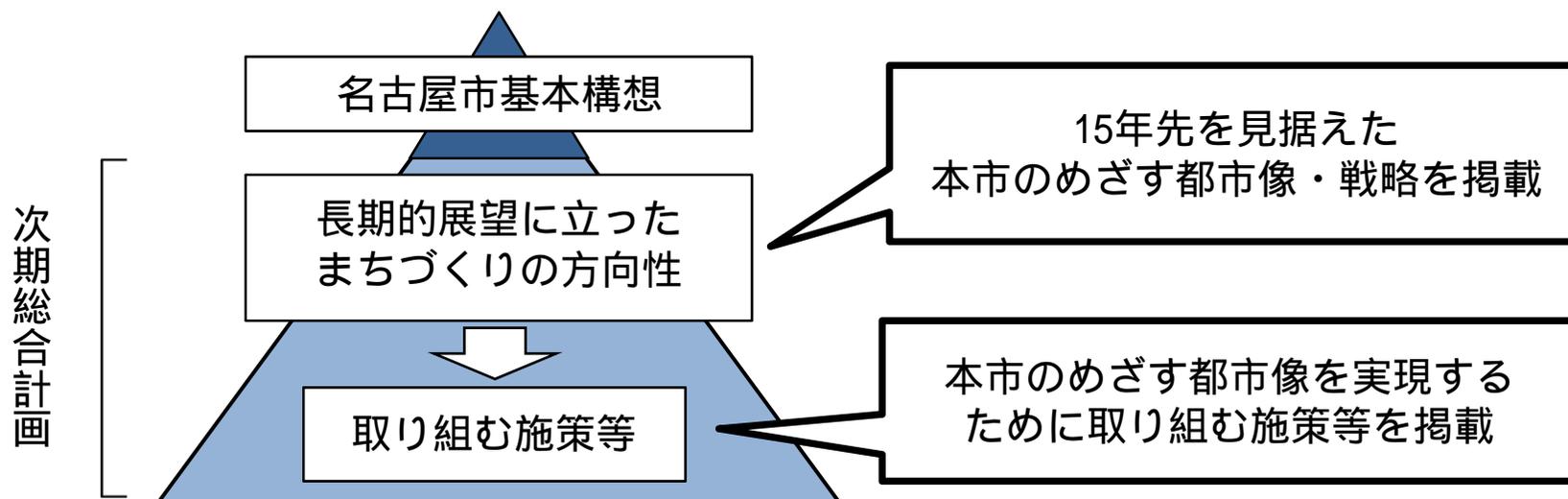
1 名古屋市次期総合計画の策定

(1) 策定のねらい

長期的展望に立ったまちづくりの方向性を明確化します。

本市のめざす都市像を実現するために取り組む施策等を明示します。

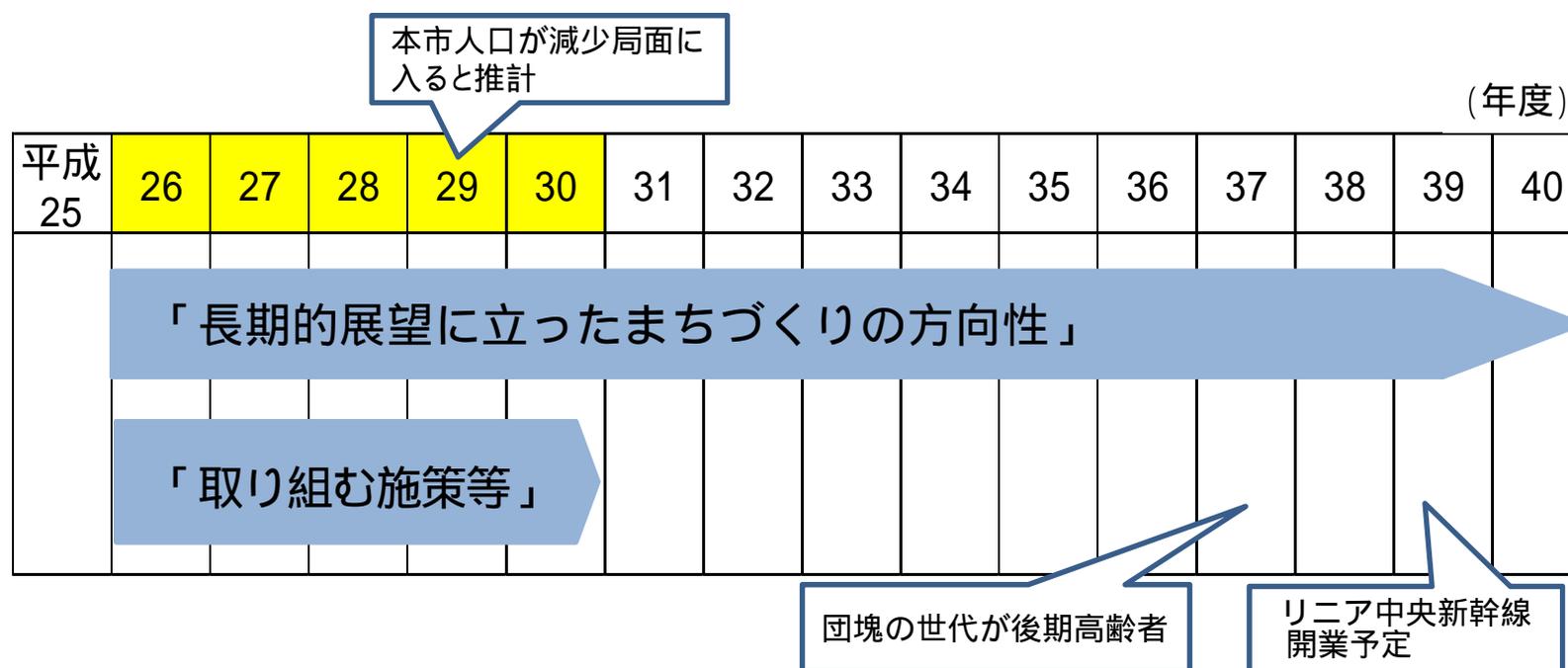
< 計画構成イメージ >



(2) 計画期間イメージ

「長期的展望に立ったまちづくりの方向性」
時代の潮流や市政を取り巻く課題を分析した上で、
15年先の将来を見据えて都市像・戦略を描きます。

「取り組む施策等」
平成26年度から30年度の関連する事業を掲載します。



2 計画の基本指標

(1) 常住人口

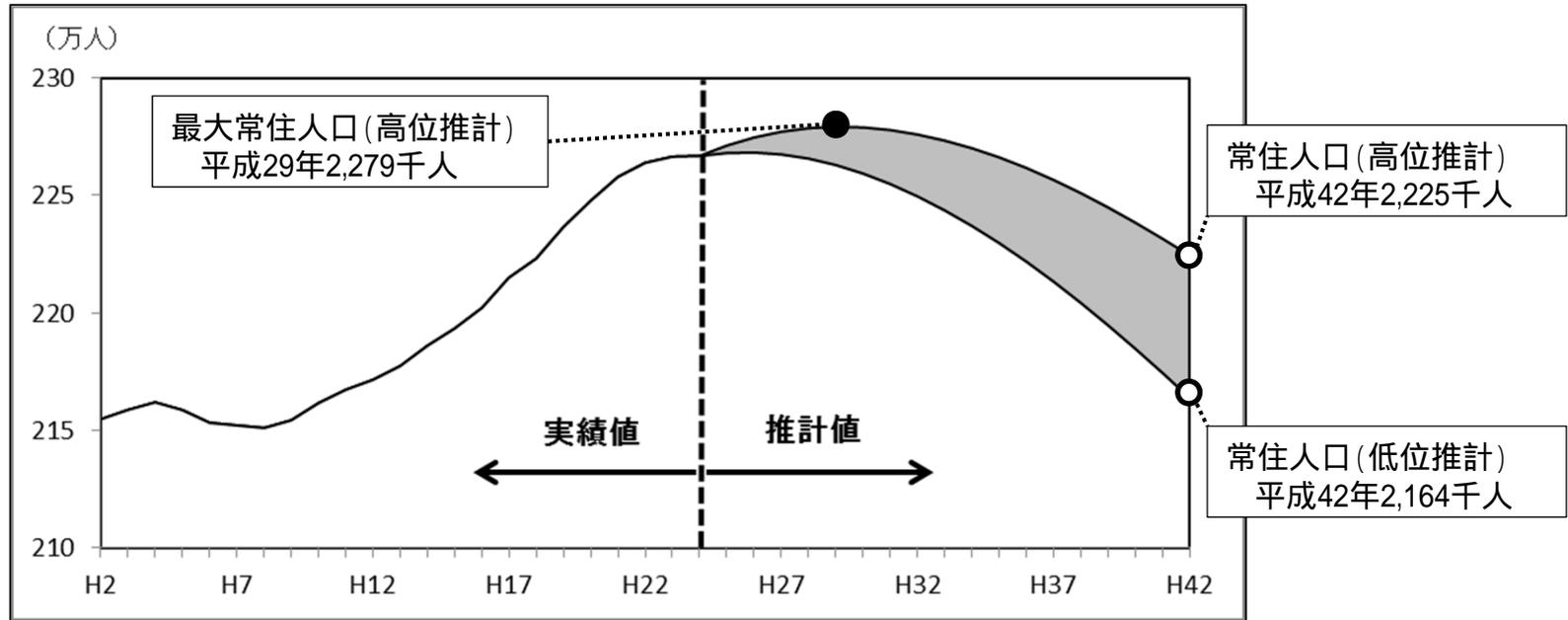
バブル経済による市外への転出の増加から、本市人口は平成4年から8年にかけて減少

平成9年以降は15年連続で増加しているが、近年増加数は鈍化

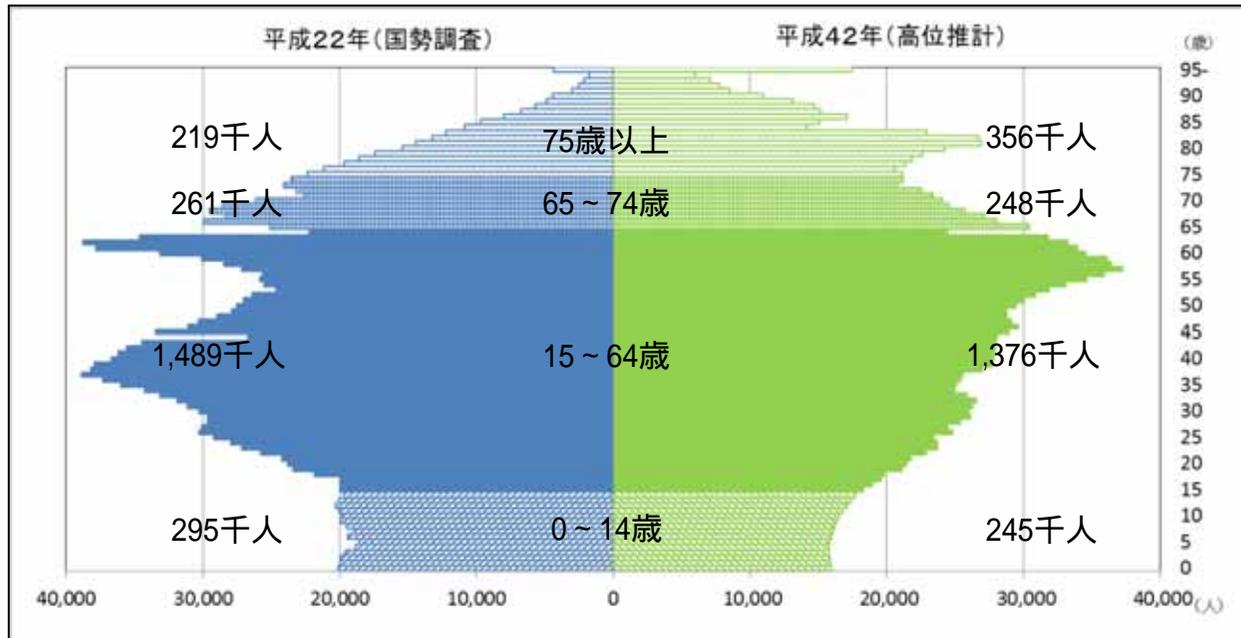
本市常住人口は226万6,851人
(平成24年10月1日現在)

自然増減がマイナスになることが予想されることから、遅くとも平成29年頃には常住人口は減少に転じると推計

[総人口]



[年齢別人口]

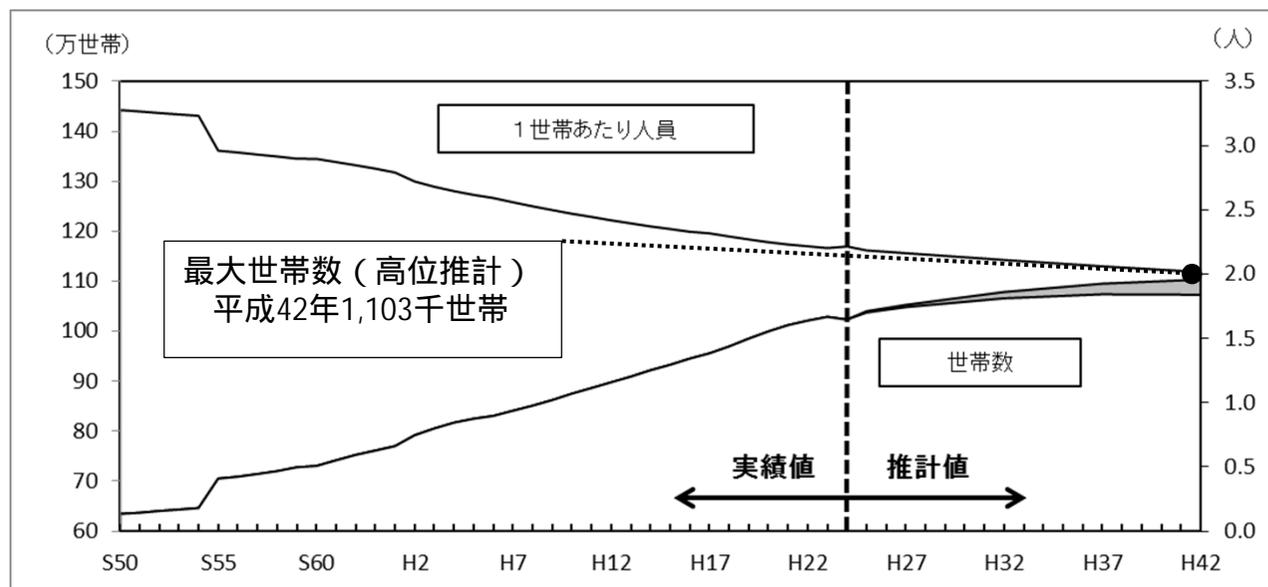


(2) 世帯数

本市世帯数は一貫して増加。1世帯人員は一貫して減少

102万3,428世帯、1世帯人員は2.21人
(平成24年10月1日現在)

高齢単身世帯など単独世帯数の増加により、世帯数の増加傾向は続くと推計

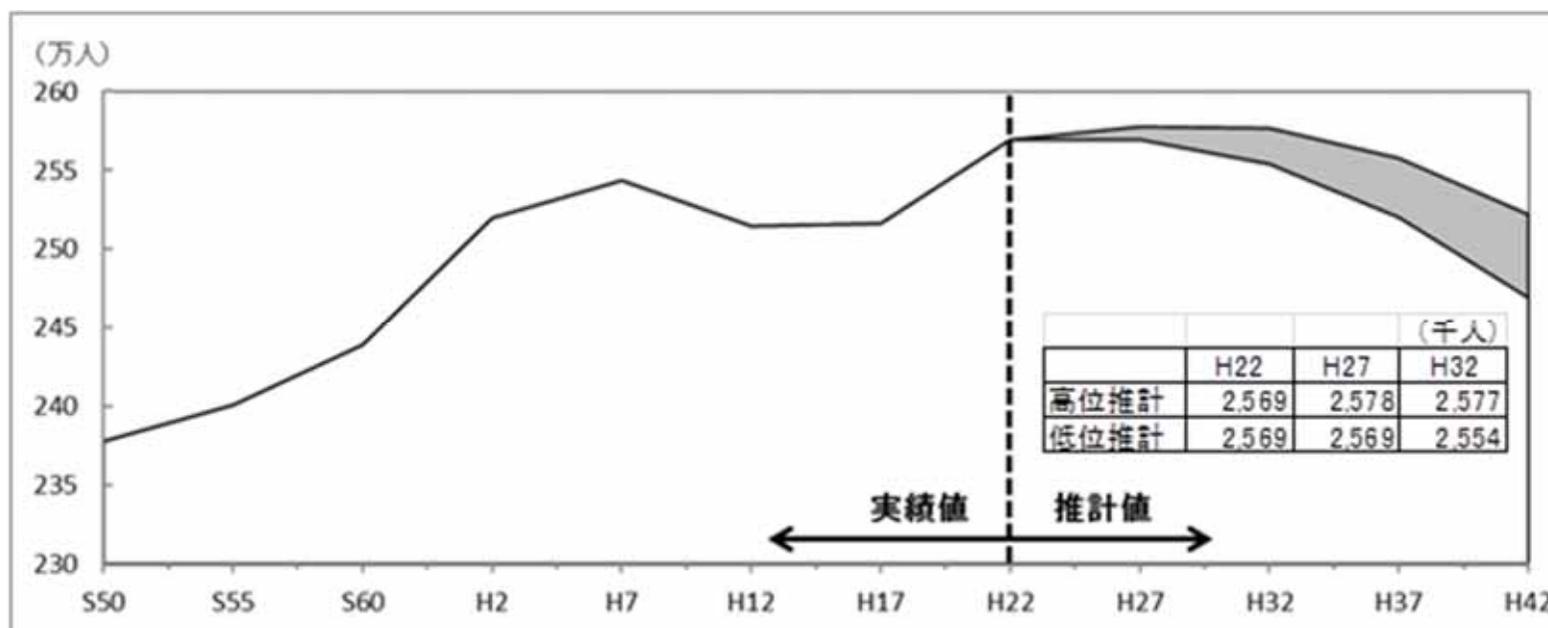


(3) 昼間人口

本市昼間人口は、主に市外からの通学者の大幅な減少により平成7年から平成12年にかけて減少。その後は増加

256万9,376人(平成22年10月1日現在)

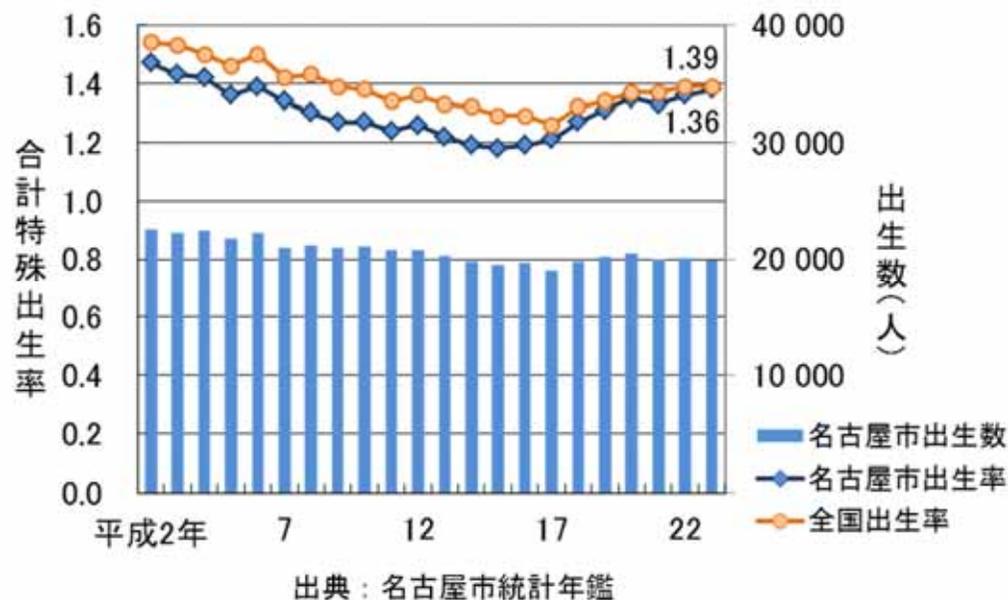
遅くとも平成32年頃までに減少に転じると推計



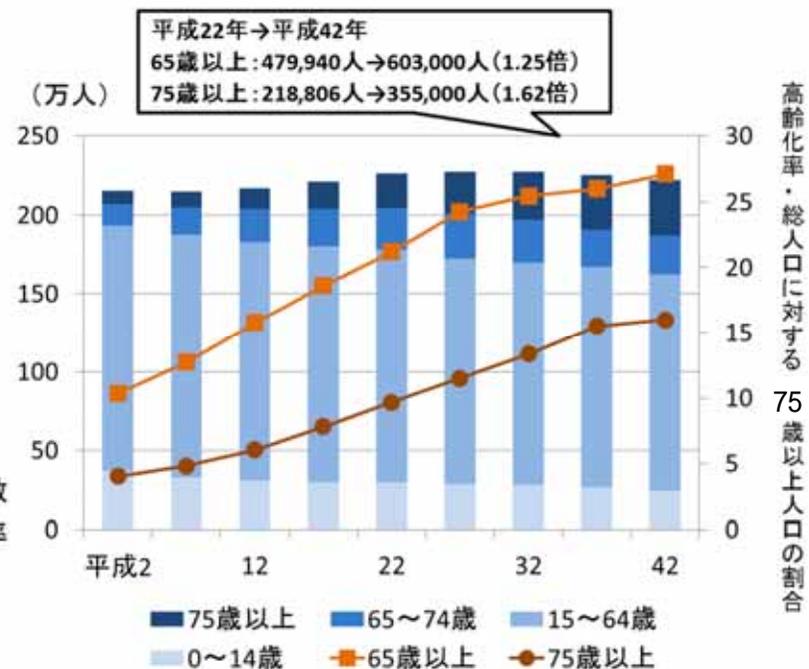
3 市政を取り巻く潮流

(1) 少子化・高齡化

本市の出生数と合計特殊出生率の推移



本市の高齡化の推移と将来推計

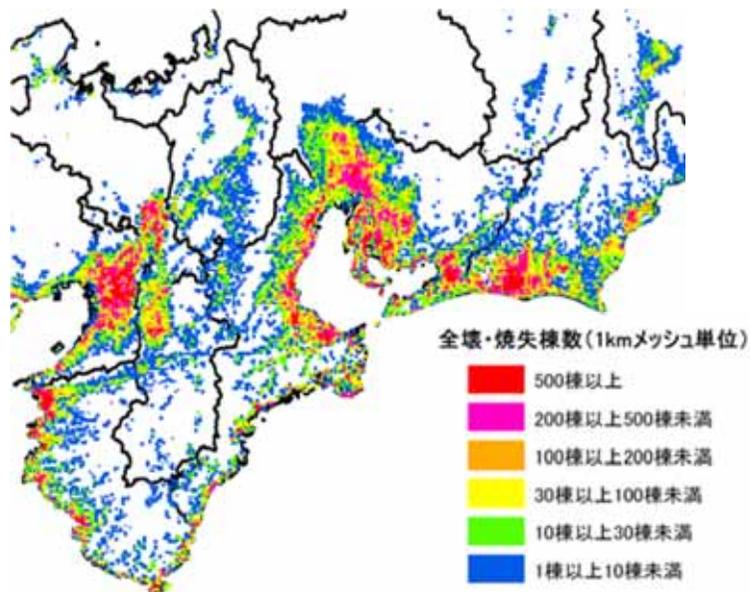


出生数の減少と、高齡者人口の大幅な増加が見込まれます。

本市65歳以上の高齡者人口は、平成22年（2010年）に479,940人であったものが、平成42年（2030年）には約603,000人まで増加すると推計しています。

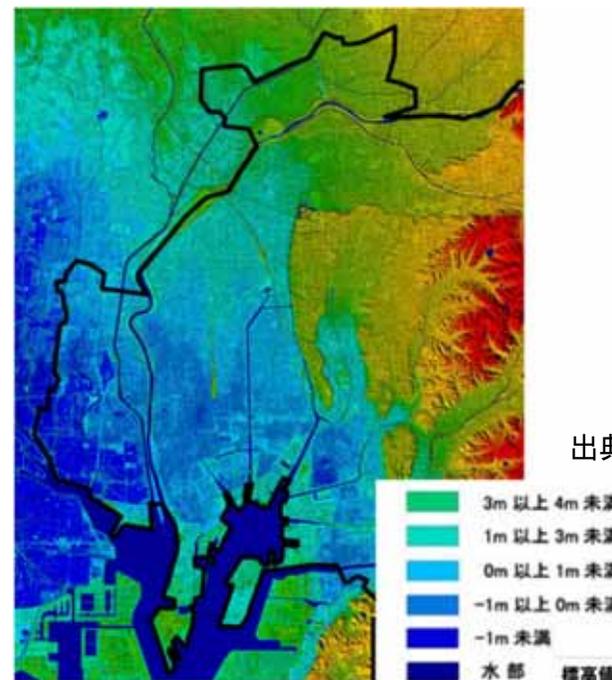
(2) 災害に対する不安の高まり

南海トラフ地震被害想定



出典：内閣府「南海トラフ巨大地震の被害想定について(第一次報告)」(平成24年)

市西南部の海拔ゼロメートル地帯



出典：国土地理院

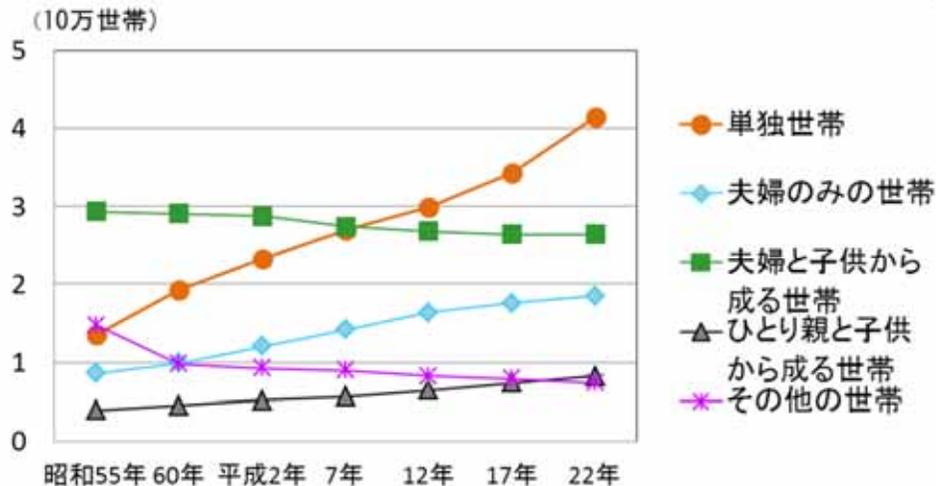
東日本大震災後の内閣府の世論調査で、自然災害に対し不安を感じる人が8割を超えています。

名古屋市は、伊勢湾台風や東海豪雨などの風水害により低平地を中心に大きな被害を被っています。

南海トラフの巨大地震は、今後30年以内に60%程度で発生するとされており、大きな被害が想定され、市民の不安が高まっています。

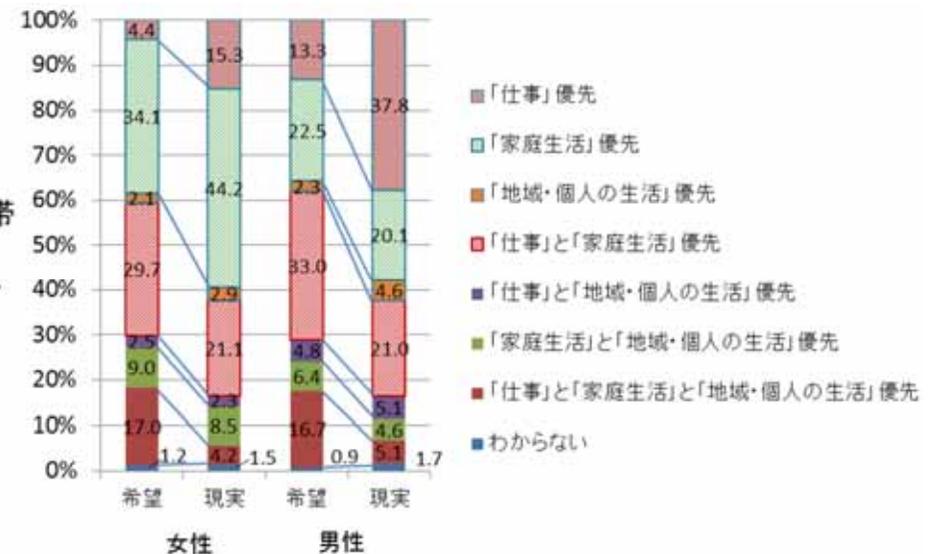
(3) 価値観・ライフスタイルの多様化

名古屋市における家族類別世帯数の推移



出典：内閣府「国民生活に関する世論調査」

仕事と生活の調和に関する希望と現実

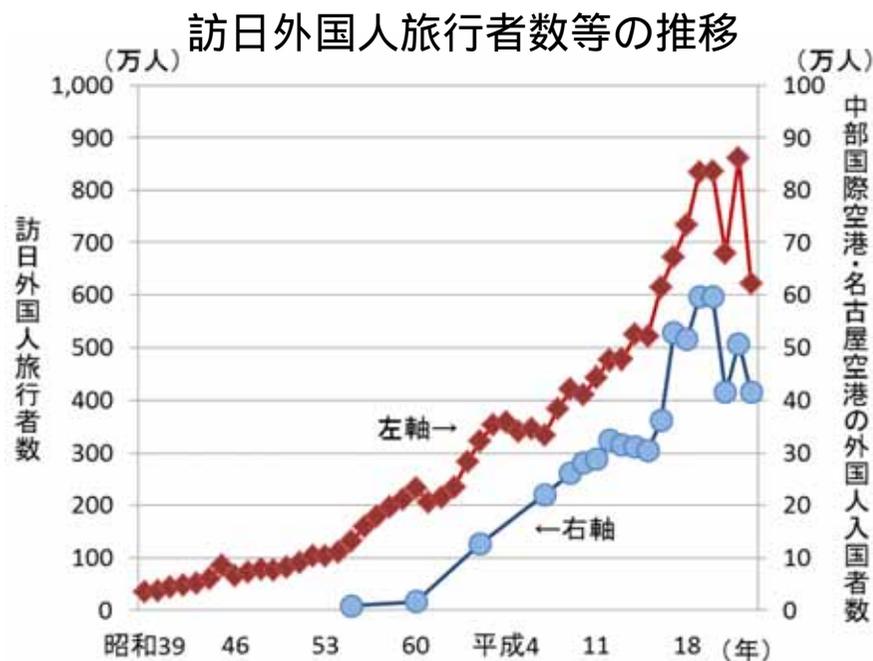


出典：男女共同参画白書 平成24年
元内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

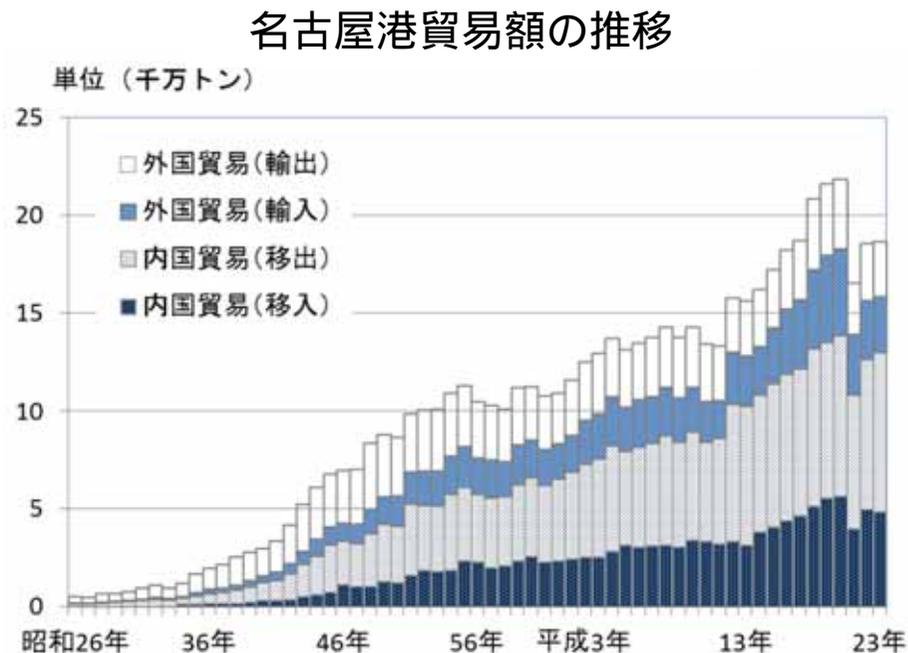
世帯主の年齢が65歳以上の高齢世帯が増加しています。
特に高齢単身世帯は急増が予測されています。

家族や世帯のあり方や人と人とのつながりが変化の中で、価値観やライフスタイルが多様化しています。

(4) グローバル化の進展



出典：日本政府観光局「出国日本人数の動向」法務省「出入国管理統計」



出典：名古屋港管理組合「数字で見る名古屋港2011」

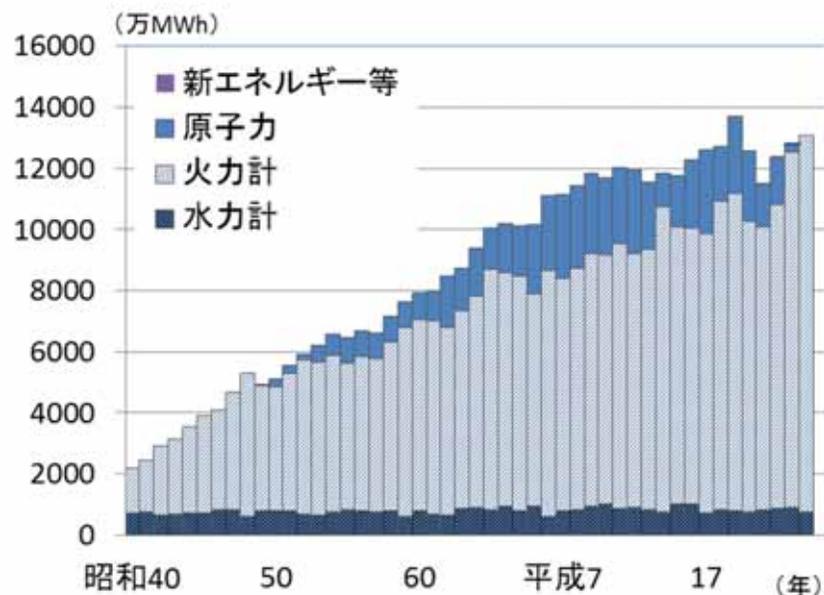
訪日外国人旅行者数と中部国際空港・名古屋空港の外国人入国者数は同様に増加しています。

国家や地域の境界を越えて、地球規模で人、物、資金や情報の移動が拡大し、相互依存が深まるグローバル化が進展しています。

グローバル化が進展し、国境を越えるためのさまざまな障壁が低くなってきたことで、都市は、国境を越えて都市間競争にさらされています。

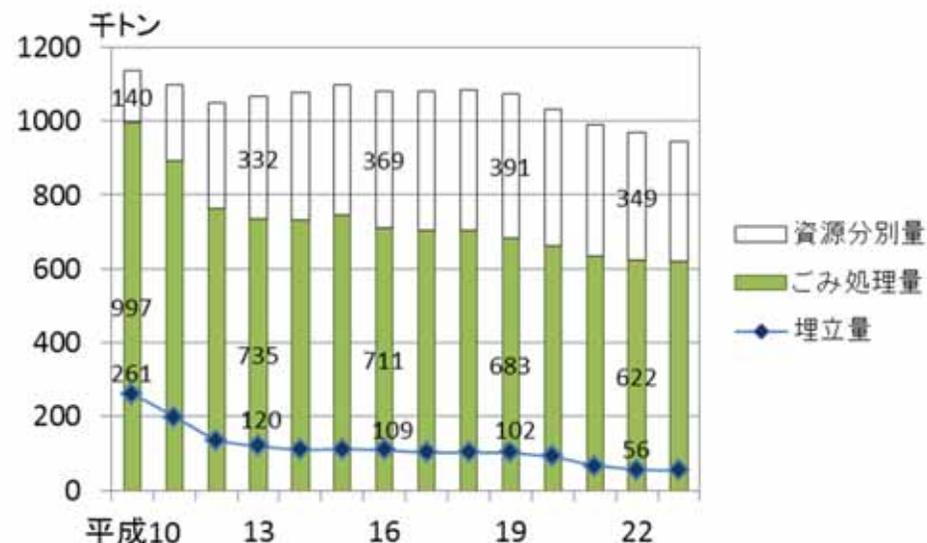
(5) 環境問題の深刻化

中部電力管内のエネルギー源別発電量推移



出典：電力事業連合会「電力統計情報」

本市におけるごみ処理量の推移



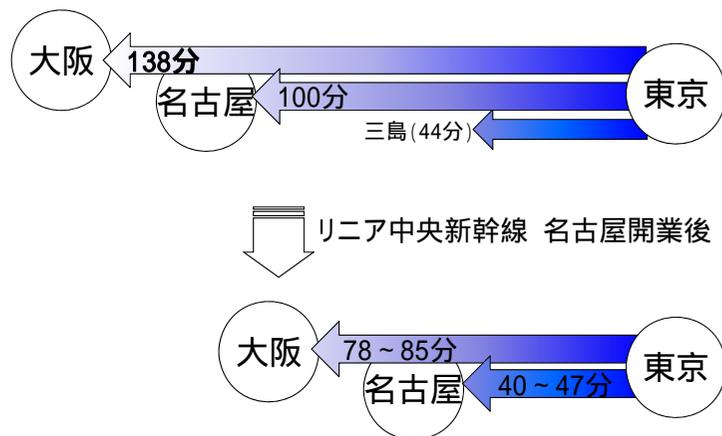
出典：平成23年度名古屋市環境白書

暮らしを取り巻く環境が持続可能か懸念されるようになっていきます。

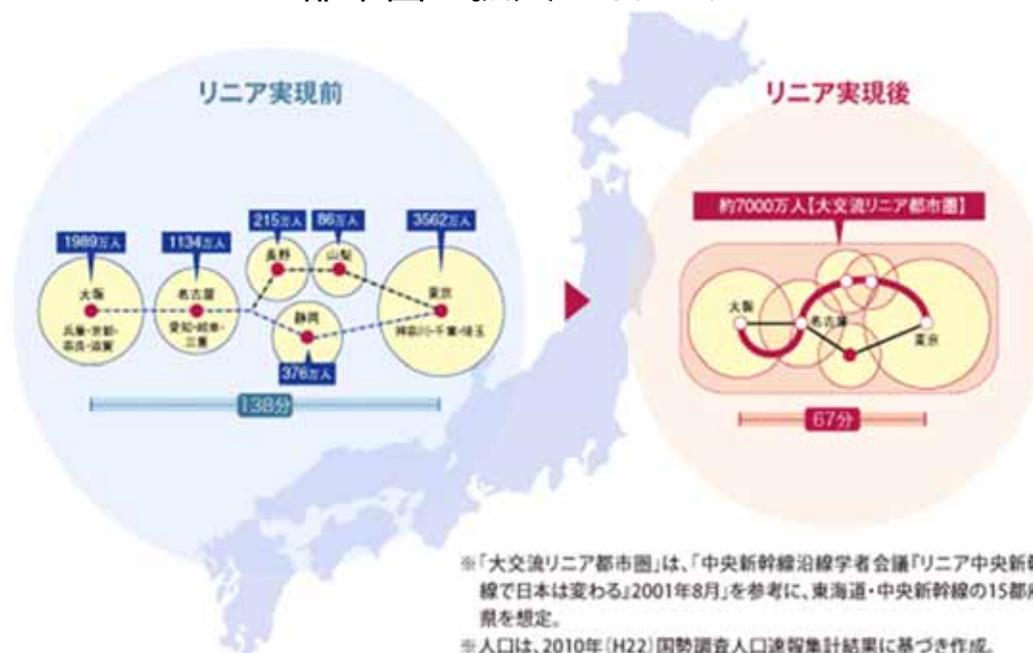
循環型社会・低炭素社会の実現や健全な水循環や生物多様性の確保などについて、長期的な展望のもと、地球規模の観点ですすめていくことが課題となっています。

(6) リニア中央新幹線の開業

リニア中央新幹線開業による時間短縮効果



都市圏の拡大のイメージ

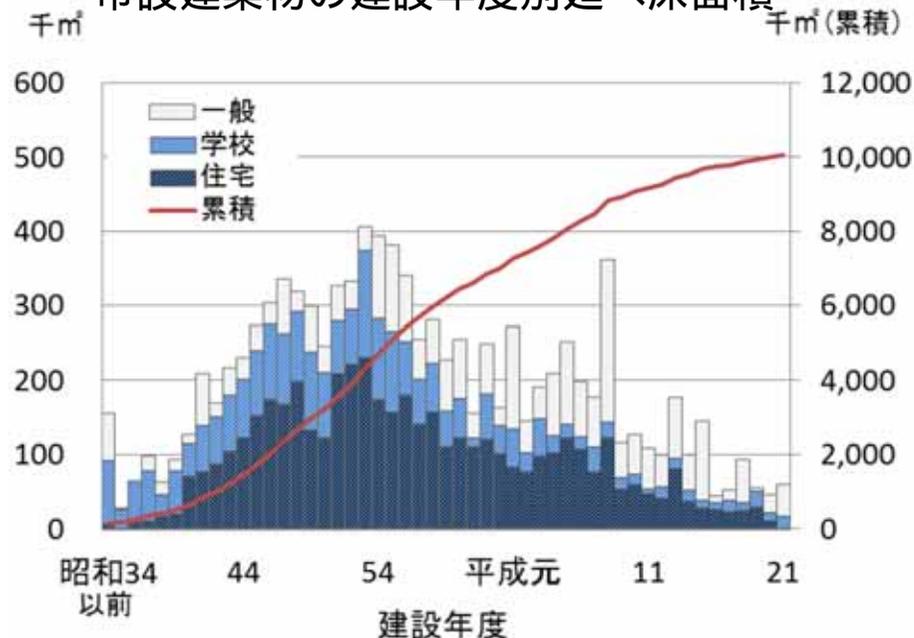


平成39年（2027年）に東京 - 名古屋間のリニア中央新幹線の開業が予定されています。

現在新幹線により約100分で結ばれている東京 - 名古屋間が、新たに約40分で結ばれることにより、巨大な都市圏が出現します。

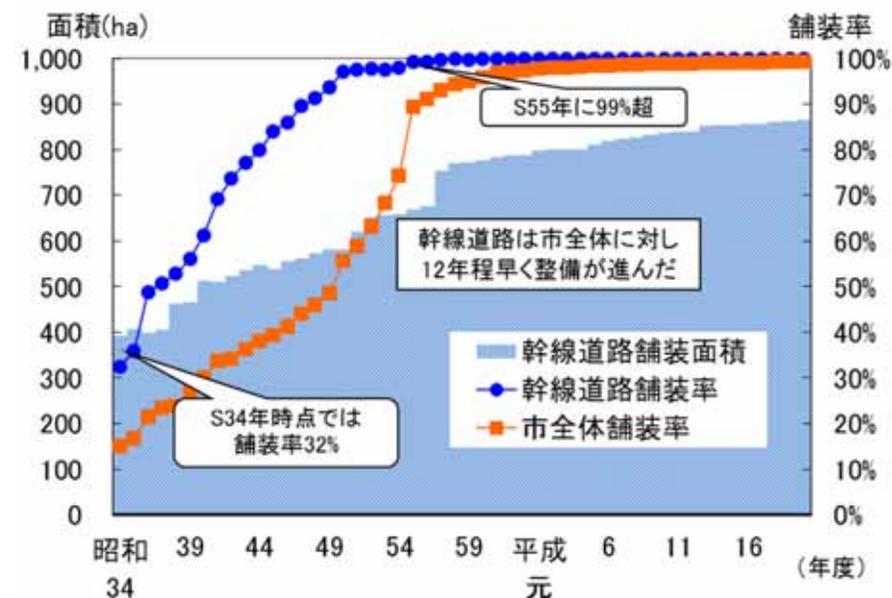
(7) 公共施設の老朽化

市設建築物の建設年度別延べ床面積



出典：名古屋市アセットマネジメント推進プラン

幹線道路舗装延長の推移



出典：名古屋市アセットマネジメント推進プラン

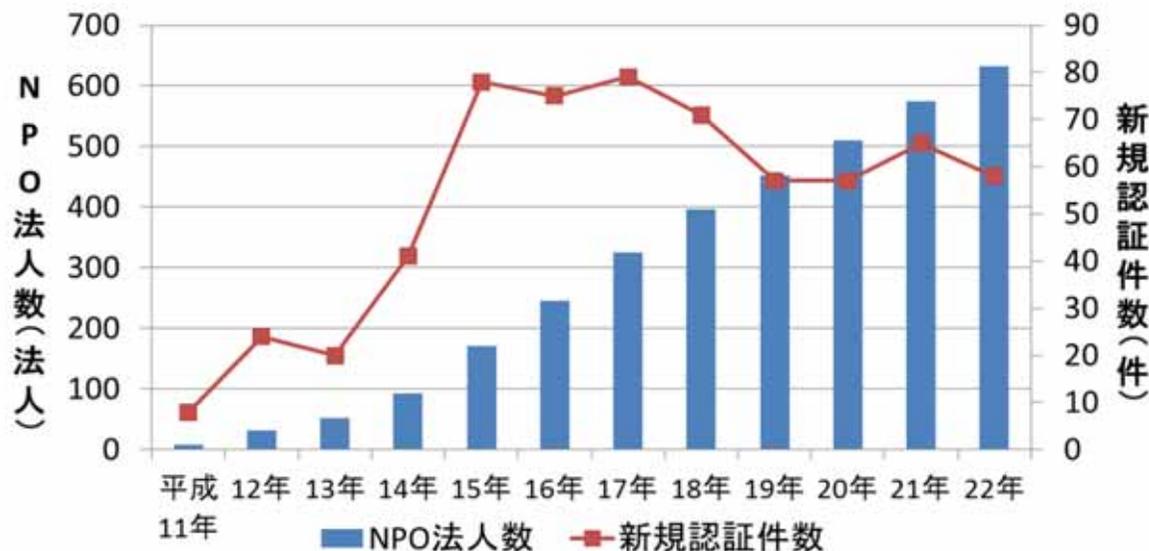
戦後の計画的な事業実施により都市基盤は概ね整備され、都市的な生活ができるようになっていきます。

一方、これらの公共施設の多くが昭和40年代から50年代にかけて建設されているため、老朽化が進行しています。

市設建築物の更新等に要する施設整備費は、長寿命化を進めた場合でも、概ね40年間で約2兆9,900億円が必要と見込まれています。

(8) 行政を取り巻く社会環境の変化

本市内に主たる事務所をもつNPO法人数の推移



出典：内閣府、愛知県の認証NPO法人一覧

広域的な課題に対して行政機関が連携して対応する必要性、新たな行政課題への対応のため、住民自治を一層推進していく必要性が高まっています。

それぞれの立場から様々な公共的なサービスを担う市民、企業やNPOの活躍の機会が増えています。

4 名古屋市民2万人アンケートの結果

重要度について

重要度 上位10項目		満足度
1位	安心して適切な医療を受けられる	3位
2位	いつでも安心しておいしい水が飲める	1位
3位	介護が必要となったときに安心して介護を受けることができる	52位
4位	生涯にわたり、心も身体も健康である	20位
5位	犯罪が少なく安全で安心して過ごしている	76位
6位	災害時の情報がさまざまな手段で提供され、市民に迅速に行き渡る	54位
7位	災害などの緊急時に市民を守る体制が整っている	65位
8位	地震や大雨に備えた災害に強いまちづくりが進んでいる	57位
9位	働く意欲のある人が職に就くことができる	82位
10位	公共交通機関が便利で利用しやすい	6位

(重要度・満足度全85項目)

重要度が平均より高く、満足度が平均より低い項目

- ・ 犯罪が少なく安全で安心して過ごしている
- ・ 働く意欲のある人が職に就くことができる
- ・ 交通事故が少ないまちになっている
- ・ 虐待やいじめがなく、子どもの権利が守られている
- ・ 子どもが安心してのびのびと遊ぶことができる

など